

2013 春夏の活動報告

▼党綱領改正(2月)

限られた時間ですが、党綱領委員会事務局長として全党、全都道府県連との議論を重ね15年ぶりの綱領改訂を行いました。「生活者の立場に立ち、改革を進め、ともに生きる社会をつくる。」これが骨格です。「改憲と自助」の自民党に対し、「改革と共生」の民主党。「政界再編」のみんなの党に対し「恒久価値」の民主党。「社会の大幅なリセット」の維新の会に対し、「現実的改革路線」の民主党。それぞれの個性がよく対比できる綱領だと思います。



▼改正離島振興法(6月)

選挙区として愛し続けた小豆島の地が、改正離島振興法のもと、支援地域指定を受けることになりました。本当に嬉しいです。地方議員年金制度の廃止と並んで、国土審議会離島振興対策分科会会長として自ら取り組んだ大きな政策課題のひとつでした。現在進行している人口減少や長寿社会、いずれも本土の数十年前を往っている島の現実。その未来を真剣に考えたいと思います。



▼10年の節目(6月16日ふれあいパーティー)



2003年、日本の将来を何とか立て直したい、一心にその思いで政治を志してから10年の節目を迎えました。お祝いなどという浮かれた気持ちは全くありません。しかし、まずはこの間の温かいお支えや励ましに心から感謝したい。そして、あらためて原点を見つめ直し、現在地を再確認して、未来への太い線を引き直したい。そんな気持ちです。はるかな夢だった政権交代があまりにも早く実現し、そしてあまりにも早く挫折した。申し訳ない思いを引きずったまま、全ての経験が糧になる、そう信じて次の10年へと向かいます。



▼小川淳也との対話集会

定期的に行なわせていただいている対話集会は160回を数えました。小学校区ごと、そして小豆島、直島での対話集会は、毎回皆様の貴重なご意見をいただけるありがたい機会です。



4月7日 新塩屋町



5月19日 小豆島(蒲生)



9月12日 直島



9月29日 日新

■ 閉会期間

6月26日に通常国会が閉会して以降、参議院選挙を挟みましたが、これだけまとまった閉会期間は実に7年ぶりです。2007年の参議院選挙で衆参がねじれてから、ほとんど毎年、事実上の通年国会、年中国会が開かれている状態が続きました。よくも悪くも衆参のねじれが解消した今、法案や予算審議を政局の種にしないこと、そして私たち野党議員はしっかり地元を回って、一人でもたくさんの方にお目にかかり、直接思いをお聞きし、お声を預かる、そのことに尽きます。



■ 夏場の草取り

こうした国会閉会中の活動を「夏場の草取り」と表現されたのは小沢一郎さんだったでしょうか。高校野球に懸命だった私にとっては、むしろ「冬場の走り込み」というイメージです。有権者の皆様からお叱り、ご意見、ご質問、日々の暮らしや仕事の中から芽生え、抱える、実感のこもった思いをお預かりすることは、私にとって生命線です。今夏は海外視察に出ず、しっかりあいさつ回り、街頭演説、じっくりと地元で活動させていただきました。



■ 長期ビジョン

それと合わせて、この夏取り組んだのが、長期ビジョンづくりです。この10年、特に政権担当の3年3か月を振り返って、残念で、無念で、反省することしきりなのは、この国の将来に関する長期構想を持ちえなかったことです。私自身、理由あって、背景あって、思いあって、この政界に飛び込みました。この10年、考えに考え、調べに調べた、私なりの信条とビジョンを、この際しっかりまとめあげたいと思っています。それを、今後の政治活動を貫く骨格に据えて、さらに飛躍したい、そう決心しています。



後援会の例会風景



伊勢神宮献上米の御田植祭



高松まつりにて